

# 横浜市 カーボンニュートラル マップアイデア共創ワークショップ

2024年1月～3月

## はじめに

横浜市は、2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」を目指しています。このため、脱炭素ライフスタイルの普及と、市内経済の循環及び持続可能な発展を推進を目的として、あいおいニッセイ同和損害保険とともに「循環経済等に資する魅力的な脱炭素ライフスタイル創出・浸透事業」を実施しています。

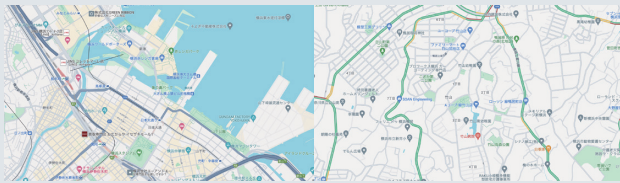
地域や住民の多様性を踏まえた脱炭素化を取り入れる事が課題です。例えば、桜木町のような都心部では、高層ビルやオフィスビルが立ち並び、活気のある商業地区として知られています。一方、都心部から少し離れた緑区や青葉区には、住宅が密集し、高齢化が進んでいる静かな住宅街や古い団地もありま

す。こうした地域では、高齢者の社会的孤立や地域コミュニティの活性化など、地域の課題に焦点を当てた支援が必要です。

2023年に横浜市とあいおいニッセイ同和損害保険が開催した「よこはまカーボンニュートラル事業創発ワークショップ」では、幅広い参加者が脱炭素暮らしに役立つビジネスのアイデアを話し合い、実現を目指すワークショップが開催されました。この成果に基づき、地域の特徴を活かして、地域の企業やNPO、学生を含む市民が集まって、脱炭素・循環型で楽しい暮らしを送る助けになる地域マップを創るワークショップが開催されました。

## 1.5°Cライフスタイルの活用

ワークショップ参加者は、まず1.5°Cライフスタイルと脱炭素につながる日々の行動について学びました。つづいて地域の生活者の観点で脱炭素行動について話し合う中で、脱炭素行動を暮らしに取り入れるのが難しい場合も多いことが明らかになりました。そこで、脱炭素で循環型の暮らしを実現するためには、地域にどんな工夫や仕掛けがあればいいか、意見を交わしました。参加者は6つのグループをつくり、3グループは都心部（桜木町周辺）を、3グループは郊外エリア（竹山団地地区）の今とこれからのために、地域に作りたい仕掛けや地域の機会を共有するマップのアイデアを作りました。



各チームは、マップを使う人とマップで紹介する内容について検討しました。

参加者は各自パソコンを持参し、マップの試作は全てオンライン・ホワイトボードのMuralで行いました。ワークショップの間にもDiscordを用いてオンラインで意見交換を続けました。第2回と第3回のワークショップの間には、マップの対象地域を訪れ想定ユーザーに聞き取り調査も行いました。

次のようなマップのアイデアが作られました。

- 横浜都市部で働く人に低炭素なランチや移動のオプションを提示する職住近接マップ
- 横浜をもっと知りたい人が地元の穴場や地産地消を楽しむための横浜ディープマップ
- 訪問者や観光客に低炭素な移動手段、給水スポットなどを紹介する横浜シェアマップ
- 子育て世代を対象に、自然を活かした遊びと脱炭素を両立させる自然の価値マップ
- モノ・スキルのシェアや食べもののおすそ分けをしたい人を表示し、地域の世代交流と活性化を促進する竹山ジモティマップ



1.5°C Lifestyles

脱炭素型のライフスタイル

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/1p5deg-lifestyles>

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11  
Tel: 046-855-3700 E-mail: [iges@iges.or.jp](mailto:iges@iges.or.jp)